

## WHC 第8回OB夏合宿記録（2014年8月3日～5日）

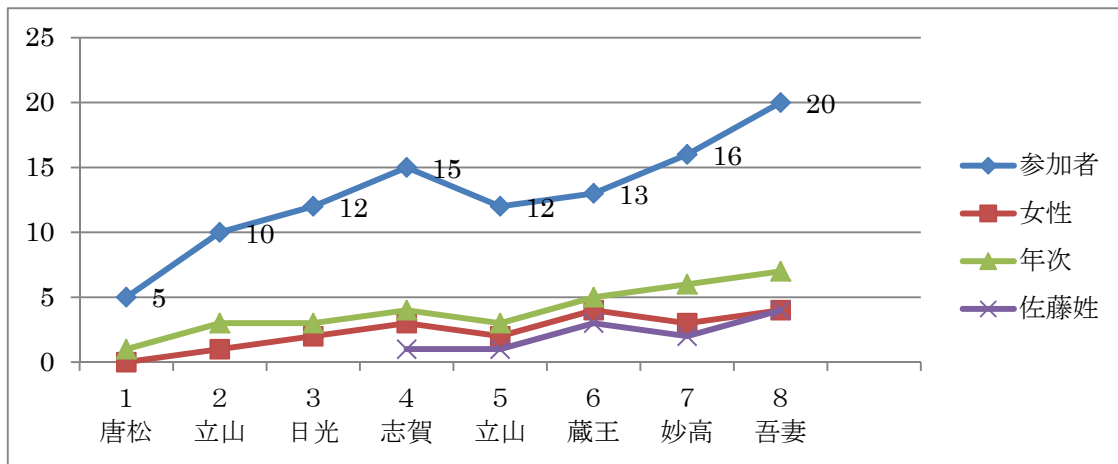
8回目を迎えた今年の夏合宿は、福島県吾妻連峰の新野地温泉をベースに、次の20名（敬称略）の参加を得て実施されました。

1期…大河内、佐藤一雄、田中 2期…熊倉、中島 3期…小川戸

4期…菅原（猪間）、縹（日向寺）、大竹、岡林、田上、徳淵、西海、花田、五十嵐

5期…佐藤（高橋）牧子 6期…杉原（綿貫）、佐藤徹 8期…齋藤（＝リーダー）、佐藤憲一

OB合宿史上最多になった参加者（これまでは昨年の16名）をはじめ、様々な記録を塗り替えるメンバー構成でした。年次は7期を除く1～8期の7代（同、昨年の6代）に及び、女性が4人（同、12年とタイ）、佐藤姓が4人（同、12年の3人）、さらに、平均年齢71歳くらい（1、2期の新人？参加で記録更新は間違いなし）というところ。



関東甲信の7月23日に続き、東北地方でも28日には梅雨が明け、合宿期間中の福島の天気は、晴れ時々曇り、気温は東京より高く、連日猛暑日との予報が出ていました。

初日の集合は午前9時40分、JR福島駅東口。前夜から福島に泊まり込んだ齋藤リーダーと神戸組2名、マイカー3台で駆けつけた4名、早朝に東京を発った新幹線組13名が勢ぞろいし、早速レンタカーを含め、5台に分乗して、磐梯吾妻スカイラインを1時間強で標高1575mの浄土平まで走りました。赤茶けた地肌から噴煙が上がり、火山活動を実感させる一方、ゆったりとした山肌の緑は濃く、白い雲が流れる穏やかな光景でもありました。

日曜日とあって結構な人出で、それらの人に混じってまずは大きなすり鉢状の吾妻小富士の火口壁の縁まで登り、ジリジリ照りつける日差しのもとで持参の弁当を広げました。味噌汁が配られ、ショウガやミョウガ、キュウリなどのオカズが回され、食後にはフルーツにレギュラーコーヒー、紅茶と、いつもながらのランチタイムでしたが、粉末ジュース時代を思い起こし、今昔の感に堪えない先輩もおられたようでした。





その後、翌日登る一切経山が雲の中に見え隠れする様子を眺めながら、ぐるっと一周のお鉢周りをし、浄土平に戻ってから湿原と池巡りに。木道の両側には深山秋の麒麟草、山母子、花苦菜など可憐な花が咲き、時々吹く風にホッとしながら、神秘的な水をたたえた桶沼、丸太造りの吾妻小屋、キャンプ場のある兔平と回って、浄土平のソフトクリームでこの日の歩きを締めくくりました。

今回のベース基地は浄土平から車で30分、新野地温泉(1200m)の一軒宿である相模屋旅館(「相模」さんが経営)で、「日本秘湯を守る会」の提灯が掲げられていました。ハイボールで軽く喉を湿らせてからこの宿自慢の源泉かけ流しの野天風呂へ。一度外へ出て木で造られた遊歩道の先に簡単な木で囲まれた野天風呂があり、白く吹き上げる噴気を眺めながら入る白濁の硫黄泉でした。程よく熱い温泉に吹く風が心地よく、思い切り身体を伸ばしました。囲いの木の先にはトンボが1匹ずつ止まっており、なかなかいい雰囲気でした。ただ、洗い場が内湯にしかないので、浴衣を羽織り直すのが少々面倒ではありました。



湯上がりにくつろぐべき客間はやけに暑く、山の中ゆえか冷房設備はもちろん扇風機1つなく、「暑い、暑い」という我々の声に対しては人数分のウチワが届けられました。

5時半、熊倉さんの発声による乾杯で夕食開始。賑やかなうちに終えた夕食に続いては、持参の豊富なアルコール類、つまみで合宿恒例となった幹事部屋での大宴会。とりとめのない話は、次第に「残り人生をいかに有意義に生きるか」という話題に集約していったように思います。参加メンバーの役に立ったかどうかは分かりませんが…

2日目は、5時からの朝湯で始まり、6時25分からは、この日の本格的登山に備え、同室の4人でレオタード姿のお姉さんたち相手にテレビ体操を行いました。朝食後、再び浄土平まで行って記念撮影。

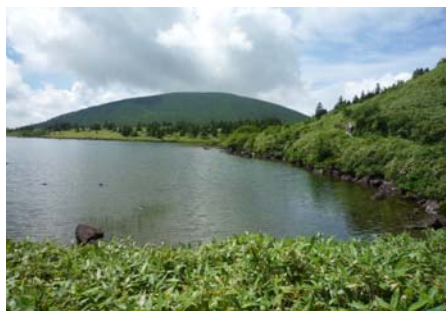


その後、酸ガ平(すがだいら)避難小屋まで一行で行進し、ここから鎌沼、姥が原を目指す「ゆうゆうグループ」6名に見送られて一切経山を目指しました。

この日のゆうゆうグループの様子は、大河内さんから次の文と画像をいただきました。

「メンバーは体力に自信のない、いやピークハンターより草花を愛でるほうが好きな年長組6名である。酸ガ平避難小屋から西海リーダーに率いられて出発するものの、小屋から約500mの鎌沼に到るや早くもコーヒープレイク。老人のなかにも格差があって、3期、4期は働き、1期、2期は平然と座っている(実は体が動かない)。正面に東吾妻山が見えていて、リーダーは「よし、あそこに登ろう」と高らかに宣言した。しかし東吾妻山登山口の分岐点まで来ると、先行する5名はさっさと浄土平方面に進んでしまい、後ろから来るリーダーが「おーい」と声をかける

が、だれも振返らなかった。11時になると「さあメンだ！」と全員の意見が一致して、木道脇の休憩スペースで昼飯。食後は昼寝をする者、周囲の植物を鑑賞する者、相変わらずバカを言い合う者などてんでんばらばらであった。最後の下りで「何故、山には坂があるのか？」などと哲学的な文句をいいながら午後1時頃に浄土平に到着した。」



さて、見送られた14人は岩のゴロゴロした道を登り、眼下の酸ガ平と鎌沼がだんだん小さくなって稜線に出ると吾妻小富士が次第に全容を現してきました。砂礫の尾根道を気持ちよく登って行くほどなく一切経山頂(1949m)。すぐに反対側を覗き込んで「魔女の瞳」といわれる五色沼の光景に見入りました。コバルトブルーの水面は太陽光の具合で時間や見る場所によって色合いが変化するといわれます。吸い込まれてしまいそうな、吸い込まれたくなるような、引きずり込まれてもいいような、なんともいえぬ魅力的な光景でした。



「のんびりグループ」4名はここから引き返し、女子比率が40%に跳ね上がった「頑張グループ」10名が家形山に向かい、ザラザラの道を一旦急降下して五色沼の畔に降り立ちました。浅瀬と中心部の色の具合が少しずつ異なり、太陽光ばかりでなく、映し込む山影や空の色によっても微妙に変わり、見飽きることはありませんでした。



そこから一登りの家形山頂(1877m)で、今度は一切経山をバックにした五色沼を眺めながらの昼食タイム。家形山とは福島市方面から見ると家の形に見えることから名付けられたということですが、さては吾妻連峰の「吾妻」もと思って、帰宅後山名辞典をめくると、「吾妻の山名は東国を吾妻といったことに因むという説、また福島側から見る家形山が柱4本を立てた四阿(あづまや)に似ているところからとする説、アイヌ語のアトマ(輝く湖)が転化したものとする説などがある。」とありました。



一切経山へ戻る頃に黒い雲が流れてきて、酸ガ平の手前では小雨がパラつきましたが、幸いそれ以上にはならず、避難小屋で一息入れてから、鎌沼周辺では深山竜胆、毛氈苔、細葉の木曾千鳥(「別れの磯千鳥」という懐メロを思い出す名前だ)などの花を愛で、姥が原では風車になった稚児車や綿菅などを見ながら木道を回って浄土平に戻りました。宿へ向かう車からは、会津磐梯山と猪苗代湖を間近に望むことができました。(この日の歩き、所要7時間14分、正味4時間30分)



この晩は、入浴、夕食の後、幹事部屋で前夜同様居酒屋が開店し、別の一室では賭場が開帳されました。

3日目、この日も朝の野天風呂から一日が始まり、全員で鬼面山(1482m)を往復しました。



朝な夕なに隣りの温泉の噴煙の向こうに急峻な岩肌を見せていた鬼面山、この山は吾妻連峰というより安達太良連峰北端の山で、宿の脇の「安達太良山登山口」の道標にしたがってスタートしました。「ブナっ子路」との愛称のあるこの道は、さほど太くはないものの、ブナの緑に朝陽が射し込むのんびりとした道でした。

旧土湯峠の草原に出ると白山風露の群落がみられ、ここから鬼面山頂までの1時間、やや雑多な感じはありましたが、実に多くの花を見ることができました。薊、靱草、青柳草、糊空木、小葉擬宝珠、深山沙蓼、巴塩竈、玉川杜鵑草、唐松草、米躑躅、穂躑躅、紅輪蒲公英、嶺薄雪草、弟切草、苦菜、四葉鶴、黒豆の木、丸葉下野、白



根人参、ナントカ石楠花などなど。花の名前を聞いたり、カメラを向けたりと、時々立ち止まるのですが、長い列の伝言ゲームでは花の名前も正確には伝わってきませんでした。

宿から見た目ほどの厳しい登りはなく、歩行1時間35分で鬼面山に到着。晴れ上がった山頂からは目の前に安達太良の箕輪山、振り返れば雄大な吾妻連峰、目を転じれば磐梯山から裏磐梯の湖沼、会津や阿武隈の山々が連なり、遠くに蔵王が望まれ、さらに雲の間からは残雪の飯豊連峰が覗くという大展望でした。

宿に戻り、この旅最後の入浴でさっぱりと汗を流してから、佐藤一雄さんの音頭で乾杯、打ち上げ式を挙行了しました。ビールの飲みすぎでなく、やけどのような赤ら顔や首筋、腕などに日焼けの見られる人が多かったのは、3日間の好天に恵まれた証しでもありました。ともかく、これまで8回の合宿で一番天気の良い3日間でした。ビールを注ぎ合いながら、来年8月2日～4日に開催の決まった第9回・乗鞍高原合宿への期待が語られました。

マイカー組と別れたJR福島駅前の温度計は「38℃」を表示していました。暑さのせいだけではなかったかもしれませんが、手周りの荷物はできるだけ少なく、かつ常時目の届くようにとの教訓をいただいて新幹線に乗りました。帰り着いた東京も、この夏一番の猛暑日でした。

齋藤リーダーはじめ皆さんには今年も大変お世話になりました。次回もまたよろしくお願いします。

(記録係 五十嵐昭)

